

被災地で見た 地域に根ざした看護師の千カラ ～熊本・南阿蘇村の現場から～

5月3日から8日まで、熊本県南阿蘇村に被災地支援へ行ってきました。この村は大きな被害がでた地域のひとつです。

避難所のひとつ久木野総合福祉センターの中に仮設診療所が設置されていました。避難者は徐々に減っていましたが、まだ60～70人程度の方がおられました。雨が降ったり、大きな余震があると不安になり避難して来られる方もいました。

仮設診療所の主な役割は、①避難者の方々の健康管理と必要な医療の提供、②地域の方々への医療の提供、③地域の方々健康状態や課題を把握し、行政等と連携して適切に介入する――ことだと思ひ活動しました。感染症も終息し、全体としては落ち着いてきていましたが、1日に2人の方を救急搬送した日もありました。村で唯一の病院が診療不能となり、閉院することが決まっていたこと、橋もトンネルも崩れていたことから、搬送先の病院へは2・3時間かかりました。

前のチームがすでに始めていた「地域ローラー作戦」も継続しました。110の世帯程度の地域でしたが、人手と時間が限られているため、リスクが高そうなお宅からまわりたいと思いました。その時、力を発揮してくださったのが地元の看護師さんお2人でした。

壁に張り出した地域全体の地図を指さしながら「この家はお年寄りだけ」「ここには障害を持った人が」「ここは若い人もおらずけど昼間は仕事」など、どんどん情報がでてきました。実際に伺ってみると「訪ねてよかった」と思うことが多く、看護師さんの力量の高さに感服しました。

「薬がなくなっているのに病院に行くことができず、一人で耐えておられた高齢者」の発見にも繋がりました。「車内泊」は、公共施設にある大型駐車場ではなく、自宅の庭先で数多く行われていることも分かりました。

看護師さんは、デイサービスに長年勤務されてきた方で、一人ひとりを想う気持ちがとても強い方でした。短い時間でしたが一緒に仕事ができて幸せでした。東京で災害が起こったら、私たちは同じように役割を果たすことができるだろうかと考えさせられました。



谷川智行
(内科・小児科医)

どなたでもご参加ください♪ 8.17(水)医系学生交流会

医学生・看護学生・リハ学生・薬学生・・・

中野というフィールドでインターンや実習を行う学生さんを職員みんなで歓迎します！

当日は、医療体験として現場の職員が口腔ケアを講習。職種は違えど同じ医療職として情報交換が行えるのも魅力のひとつ！

15:00～医療体験会
口腔ケア

17:45～交流会

@東医研ビル
2F



足浴ボランティア募集

入院患者さまに足浴をするボランティアです。

足浴の技術を通して、患者さまとのコミュニケーションの仕方を工夫したり、こちらも多くを学ばせてもらえます。とっても喜んでもらえます(*^*)

☆動きやすい服装、筆記用具、エプロン持参で☆

◎8/6(土) 10時～12時

◎9/3(土) 10時～12時

◎10/1(土) 10時～12時

参加申し込みは、お電話か
ホームページの『お問い合わせ
フォーム』から！

参加者にはドリンクをお出ししています☆